

## 重症乏精子症患者における射出精子と TESE 精子の IVF 成績の比較

玉田いつみ<sup>1</sup>、佐藤学<sup>1</sup>、中岡義晴<sup>1</sup>、森本義晴<sup>2</sup>

<sup>1</sup>IVF なんばクリニック <sup>2</sup>HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【目的】

精巣内精子回収法 (TESE) は無精子症を適応として行われるが、射出精子にもごくわずかに運動精子が存在する重症乏精子症にも試みられる場合もある。しかし手術による侵襲の影響などを踏まえると重症乏精子症症例において射出精液と精巣内精子、どちらが体外受精成績がよいかについては検討の余地がある。そこで本研究では重症乏精子症症例において射出精液と精巣内精子の体外受精成績を後方視的に比較した。

### 【方法】

2015 年 9 月から 2019 年 5 月に TESE-ICSI を行った重症乏精子症 (TESE-CS、14 症例) を対象とした。また、同期間に重症乏精子症で射出精液を用いて体外受精を行った ECS 群 (17 症例) の二群間で体外受精成績 (受精率、Day3 移植可能胚率、胚盤胞率、良好胚盤胞率) を比較した。

### 【結果】

重症乏精子症における TESE 後精子回収率は 85.7%であった。また体外受精成績は、受精率(51.4 vs.76.7,  $P<0.05$ )、Day3 移植可能胚率(56.3 vs.72.1,  $P<0.05$ )、および胚盤胞率(22.5 vs.50.0,  $P<0.05$ )では、TESE-CS の方が、ECS よりも有意に低かった。しかし良好胚盤胞率は、CS と FCS 間で差はなかった (42.9 vs.45.7)。

### 【考察】

ECS 症例と比較すると、TESE-CS では、顕微授精における受精率、Day3 移植可能胚、胚盤胞率が有意に低下した。このことを考えると、侵襲的に精子を得ずとも射出精液から精子を回収するほうが有効であるかもしれない。今後、妊娠後の結果もふまえて検討していく必要がある。また CS 症例で TESE 精子を用いる場合にも、人為的活性化処理により受精サポートをすることで利用胚の底上げになる可能性も考えられた。